

「汗くさい」ってどんなことなの

汗くさいもとをつくるのは細菌

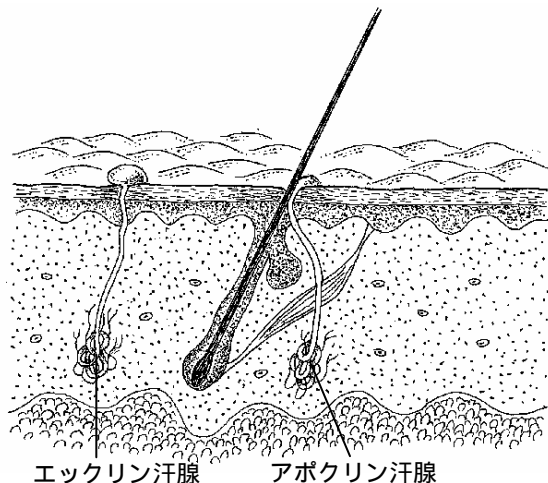
汗は、なめると、塩からかったり、すっぱい味がしたりします。しかし、その成分の99パーセントは水で、残りの1パーセントが塩・乳酸・尿素です。

ですから、汗をかいたばかりのときの汗は、ほとんどにおわないといっていいでしょう。

では、どうして汗くさくなるかというと、汗の成分を、皮ふにすんでいる、小さな小さな生き物の細菌が食べて分解し、においのもとをつくるからです。ですから、はだをいつも清潔にしておけば、汗くさくなりません。

強い汗くささのもとをつくるのは

強い汗くささを特に感じるのは、わきの下です。人間の汗腺には、エックリン汗腺とアポクリン汗腺の2種類があります。そして、わきの下にはアポクリン汗腺があり、アポクリン汗腺は、水分の多い汗のほかに、ねっとりとした感じの汗を出します。それを細菌が分解して、強い、汗くささのもとをつくるのです。（監修・保志 宏）



エックリン汗腺

アポクリン汗腺

